

インターバンクの声（2017 年 2 月 24 日）

前日公表された FOMC 議事要旨は、引き続き早期の利上げが適切との内容ではあったが、3 月の利上げの可能性が後退したような印象だった。当然ながら円相場を 113 円台中盤から 112 円台に下落させるきっかけとなった。

そして、ウォール・ストリート・ジャーナル紙とのインタビューでは「強いドルは米経済への信認の証」と述べていたムニューチン米財務長官が、昨夜の情報メディアのインタビュー番組では「ドル高は短期的には問題もある」と述べ、ドルがさらに下落してしまった。

早い時間のインタビューでは、税制改革の予定などについて発言していたので一旦ドル買いになる場面もあったが、その後、税制改革についても具体的な内容を示さず、短期的にはドル高が問題との発言もあって円買いが進んでしまった。

ただ、市場は財務長官が長期的にはドル高で問題なしとの考えであることは承知しており、ドル売りに勢いが付くことはなかった。

今後はドル高を問題視しているトランプ大統領が財務長官の考えに素直に耳を貸す状態を続けることが出来るのかも相場の鍵となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。